

課題別研究報告書

**神経症・緘黙症・精神病・脳の器質的障害の  
ある児童生徒への教育的支援に関する研究**

(平成 16～17 年度)

平成 18 年 3 月

独立行政法人  
国立特殊教育総合研究所



## まえがき

神経症・緘黙症・精神病・脳の器質的障害のある児童生徒の教育的支援については、通常の学級に在籍することが多いことや特別支援教育の面からの支援が情緒障害特殊学級、情緒障害通級指導教室、言語障害通級指導教室および病弱養護学校など多岐に亘っていることから、個々の児童生徒に合った適切な支援を行うための専門性が十分に確立されているとはいえないのが現状である。

今後の特別支援教育の中で、通常の学級に在籍する児童生徒への支援を考える上でも、またこれらの障害は軽度発達障害のある子どもでは、障害のない子どもに比べて数倍の発症率であることが知られていることから、重要な課題となることが考えられる。本研究は、神経症・緘黙症・精神病・脳の器質的障害のある児童生徒の教育的支援について総合的に検討することを目的として行われた。

このために、本研究では神経症・緘黙症・精神病・脳の器質的障害等に関する文献・資料の収集と整理を行い、障害特性や必要な支援ニーズについて文献・資料による検討の結果をまとめた。さらに発達障害と関連があり情緒及び行動の障害として学校や家庭で大きな困難に直面することが少なくない反抗挑戦性障害と行為障害についての文献・資料の整理を行ってまとめた。次いで、研究協力者が関わっている事例を通して、対応に非常に困難のあった行為障害の事例を通して、行為障害の特性や支援のあり方について詳細に調べ、適切な教育的支援のあり方について検討した。

本報告書が、神経症・緘黙症・精神病・脳の器質的障害、並びに反抗挑戦性障害、行為障害のある児童生徒の教育的支援が発展・充実していく一助となることが、本研究に関わった者の願いである。

平成 18 年 3 月

課題別研究代表者

独立行政法人

国立特殊教育総合研究所

花輪 敏男（平成 17 年度）

渥美 義賢（平成 18 年度）



## 目次

---

第1章 研究の概要	1
第2章 神経症・緘黙症・精神病・脳の器質的障害の 障害特性等について	
I. 障害特性等について	3
神経症	
緘黙症	
精神病	
脳の器質的障害	
II. 教育的対応について	32
神経症	
緘黙症	
精神病	
脳の器質的障害	
第3章 発達障害に関連のある行動障害について	
I. 反抗挑戦性障害と行為障害	37
II. 行為障害の事例からの検討	44